

令和5年度東部地区道徳教育研究協議会

白岡市立菫菫小学校

【高学年部会】

主 題 名 互いに信頼し合う友情

内容項目 B 友情, 信頼

教 材 名 「離れていても」

(彩の国の道徳「未来に生きる」)



児童の実態を押さえた
授業展開の工夫



自分の考えをもとに、
話し合う児童の姿



生き方について真剣に考える児童の姿

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 学級には話しやすい雰囲気があり、一生懸命に生き方について考えていて素晴らしい。
- 事前アンケートの内容は、自分事として考えるきっかけとなるものであった。これまでの児童の経験を踏まえながら、どのような内容がより効果的になるか検討していた良かった。
- 児童はノートに自分の考えをしっかりと書いていた。意欲的に自分の考えを友達に話したり、友達が考えたことを聞いたりしていた。友達の考えを聞きながら道徳的価値について考えを深めたり、広げたりするところが難しいところではあるが、児童同士のやり取りや教師の問い返しにより、深めていきたい。
- 書く活動の際、自分との関わりで考えられるように型を示していた。そうすることで、自信をもって書くことができていた。一方、自由に書かせるよさもある。
- 実体験等をタイミングよく想起させながら、友情を深めるために何を大切にしていこうかについて考えることができた。



2 指導講評

- 日頃の研修の積み重ねを感じた。他者の意見を意識しながら自分の考えを伝えていることが素晴らしい。
- 児童の実態を踏まえた導入等、道徳的価値に対する実態を把握した上での授業づくりが大切である。
- 道徳科の目標にもあるように、授業の中で道徳的諸価値についての理解を基に、考えを深めていくことが大切である。内容項目を、人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解する「価値理解」、道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解する「人間理解」、道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は多様であるということを理解する「他者理解」について授業の中で考えられるようにしたい。
- 道徳的価値に迫るための問い返しが必要である。「それってどういうことかな?」「今のところをもう少しグループで考えてみよう。」等、児童とやり取りをしながら深めていきたい。
- 板書は思考を深める手がかりとなる。構造的な板書等、様々な工夫ができる。

